

成形圖說

十二



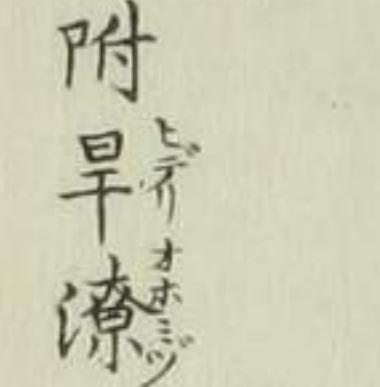
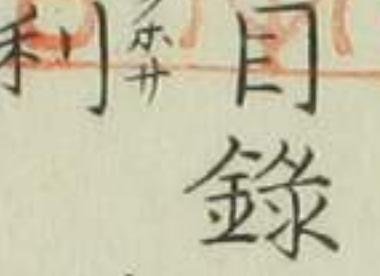
別
二一
2442
12止

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

104
2442
12

成形圖說卷之十二

目錄



堤

防

水

利

堰

埭

井

渠

石

籠

井

柵

木

杙

井

柵

波

塘

井

柵

瓦

竇

井

柵

附
捷

附
架
槽

成形圖說卷之十二

農事部類

水利

水乃久保佐書紀○凡植物の類を土宣み無くと久保佐

水利

杜氏通典○沿革云井田廢溝澗

水利埋水利所

作也本起於魏李悝

蕃名アーネホウデイングテルワトル

以上水利

ドローグテ旱

ワルテリンジ潦

水利とハ近く水土乃便利すりしき水と積てつらうと
有リ赫平十二策の曰夫助押の方ハ手引を助て其害と
押ぬるに又水利あり水害あり大食ぬを大災河
河ありと助導て田畠と冥き埋塘と没て水害と押ぬく
河ありと改め新渠の法ありて久考と助性と大禁と
押ぬくて久考と助性と大禁と
押ぬくて久考と助性と大禁と

閘門
桔槔
筒車
附水斗
水平水碓
附恒升車

天より海を序と雨と天水の絶えぬ
正因万葉よハ雨と天津水アリ又大洋溝よハ雨
りまみれとつまみれよ天月の光ハ合ひ無月
やくいてアホの國ニやは寒霞の毛カタ
大海上のえ、地みと墮て壊ヨリヒミツアヘド
高い襟邊の毛アリテ教ハ高仰す家あく山止
行ゆ金剛山ハセキ五町乃西よ山あと東よ陽
山止みもあリアリメシテ西よ山あと東よ陽
水あり人皆ハソムア及モト叶木鳥歎ト
皆天日の御簾よ壁モキテ御簾めうものあれモ壁モキ
本草よまく天日よ向ざハあくあよ水生ト相

よは天日とあるてとあるてとあるてとあるてとあるてとあるてとあるてとあるて
ハ天地の神物日月の靈氣あり凡有生の屬ニ二の元氣
よゆておきと放やり故よ人畜より以テも精の金石草木
よゑまて火水のニヨシテ^{アラ}は壞滅變化してモシト
御事ナリ是現社の證明もあくとれて土木金とみ称
シハ黒邪の統みてあるの植生ハ五金と云
らひれや彦乃の肩のみ又五行と云ひ
すよかととよみて五金と配^{ホカ}或ハモヒの名義
御當よりハ我邪のひり^{アヤキ}、^{アヤキ}とあり凡天と地
をしモキモキと地と紙あるやと曰とあるの靈よ黒と名

て日水と號ひ夫。大祖ハ日神か一月讀尊ハ滄海を
治メテ火を生ム火也。邪火水のニヒ靈也。水火也。萬
物以為日と水の徳とするも人間生出也。萬物人と
ありて行る。あくまでも陰陽とよその行りてあくま行る
事あくまと曰く。乃自行り。一乃自行りて火の徳と云せ
里故。天と地との間を行ふ。空也。火日よつとて満也
。一海ゆ。満圓ハ月よつとて満也。あり海満て太冰と云
。この二方氣息相合。あくま人皆出生し禽獸蟲魚金石
草木一切の生物まであくま。あくま。及。あくま史也
。あくま。あくま。形氣あくま。津聲あくま。生々あくま。のあれ

え隨よ恵り。宿よせし形體と備て動ひあくまの。ハツニ
の氣と云ていの。もとつまくより。それ。二の氣縁。ハ
き。あくま。男。女。と。争。て。あ
つかひ。く。引。て。ハ。天地。と。宵。とい。ハ。天。空。ハ。地
水火風と。四。と。し。竟。よ。虚空。と。や。し。ハ。世。經。あり。和。蘭。ハ
水火風土と。而。大。元。行。と。あ。モ。氣。と。い。ハ。天。空。が。天
文の。事。よ。達。う。の。や。あ。凡。も。と。う。と。火。と。火。と。う。生
れ。火。風。と。洋。よ。夢。華。源。よ。火。あ。り。と。う。と。火。と。火。と。う。生
れ。火。風。と。洋。よ。夢。華。源。よ。火。あ。り。と。う。と。火。と。火。と。う。生

て熟考に至りやうやうとぞ天日よりて生の池
ゆハ即水をもハ地よりて川をもとつて是を
地にいふ事の御名を氏の經度もあつて樹蓋の下も龍
とぞゆゑの御もの膏壤もつとも濟地より芳きること
ありかく所を深くせしむれとて村屋と呼ぶ
アリ夫ゆて石葉集より君へゆくしまやはまより
而先年は海とあらうとゆりまと氏の水野と得
まふと大池とゆくやあいせゆく恩澤と破モうち
は民を懲り仰きよりて天皇ハ室よ瀬神主とゆしませ
はうの人山中とこの池とあるもよりゆと称しまり

一也畠解ふ日是脚獵の時乃反身トハゆるをまつて
考究にてかみ端書あり一う巻失一う
又おハ石にゆてあらゆのあれもお石の沙砾
あと文る所ハ出ぬふしと天水と保ち温氣とまでお
のつりて温潤の氣ありいづれもとじきも田と
あまは上腹の良穀と得てまよすり水酒もありやけも
よほしきふもとハ何れいのにも及もしあ利あきふも
天日比光さく文づき地あらハ人からをまんにいわな
る高麗度野ありとも民どうつし田と營業とびきこし
とく色つゆは夏のめ威ふまふみどりとは少
の照徹てみれの潤もあらと梅雨乃後土地も殊ようれ

匂いゆる上より天日比火氣みきかりよ匂ひぬとあは
わふくと蒸らつるとみてと火乃湯胸あられハぬまし
うしされを北より南ハ人間も多く出生し被服もせ
せにつきて稻穀を殖ゆる水土の利常々曠地^{コモリ}へ偏て寒土
に開ぬあらわす水氣を常に北よりて稻種を播ふち
東宜つりよく味もくもく故人の氣質も少すハ強く
南方へ弱し 凡あかへ偏はまハ海東せよ偏よりさうれ
よ當今海内外と算す人跡おうちは地もあ
く今の報あくよくと云て 日本と古ハ管外るれハ
徳くろくくふありしあくめと私小摩う想みハ冰炭と
ふさるの濟ありまはさつとく土よりて歸らるゝ
日本中土と報表の偏土と何とて人物とくべものよ
いづみをきそくも室物あくハ遼南島今清王の邊乃地
夷よ古の遺制傳する事ハあり

に都やう一ハ北虜^{トロイ}と漢^カの遠^{アリ}にて南方ハ漢^カと
是さむにあり是之大都禽^ヒ地ハ北方に達めれハ南方
へ財散せと朝方^{ナカニ}に既翼^{アリ}と偏安あきやうの有^{アリ}もと
いへ^シ○山堂肆考云三代以上天運主於西北故戸口莫
盛於西北舜禹分天下爲十二州淮漢以北居其九淮漢以
南居其三周公分天下爲九州淮漢以北居其七淮漢以南
居其二三代以下天運主於東南故戸口莫盛于東南西漢
元始當天下十之一東漢建安當天下十之二西晋太康當
天下十之三唐開元當天下十之四宋元豐當天下十之五
是蓋主運^{トキ}而て論也本邦の在者と夷放也

孫西州を都し 神武中州を建みてより華夏の威あ
る殆二千五百歳而後人衆の富庶今之東武のめもとと
やを蓋天運西して復東もろこよし臣謹之と號よ始
崇神帝皇長子在之と豐城命とよし尚武の象ゆ
とく東國を統治あじき孫彥挾王 景行御運東山十五
國の都督と鮮卑而姓王と慕ふと父母のあくち
子諸別王克先業と受多ヒ班支匈奴之地と獻に豊城命
の後蕃衍東國の人々ハモ出向ひて德禽獸を享し政
兆民を得うか撫之おの川々東國一方の王者と後
世風雲の寄ニ至した將軍と任もつ人盡東國の府ニ附

きはあし始日本武尊大の嘗て東夷と征伐し豊城命右
武の棺と執てて東方とほじ烽風浸漸生來る所處は故
わると知りあり抑又地勢の天馬とある乎○水主
北里とつづきのハモ地北里とされよわもと武のまつ
らさもとす一國一郡に就ても却令もれハ人少す
其代ハ少少有るとかくありみ釣あむる居也猶しく
盛や冬耕種せんとすとモ向地ちゆも水利あるとも
氏居ゆき地ハ自古に荒廢とありて少くを敷物も見え
もく仰ひとある漢書平帝紀募徒貧民至徙所賜田宅
什器假與牛犁種食とえまきう是ハ曠遠の地と移而耕

シタル
ヒツジ立の歴史もあれども南地北民といふ方より徒さん
とすと、配所より窓をやうる學を取るゝあり人氣
の常に陽よりの日、土と情よの性自らあらず見えぬ
也。○法がみハ山幽山幽の家わせ山ふのみ岐間谷門の
比多くも山田ありと旱歲ふ、白き土とも曰あ
里行く寧なり少し水田ハ沢れ多く水田かちゆく日
ありよりよきとも洪水過る時、ひまつて水をとむ事
但地取るゝ事ふいひの意やとしさゞハ一畠のうちには
山田す村田も互に間廻てはまづふ、旱潦の災わりと
もつちの若まぬものぞり、海の神 天孫に教とま

ク高瀬の源流のハ楚辭より代々いとつとつ
とましめハ也と教するのちに續くとみもサハ男
ヒ御井もて其れに頃よりあはなつてふのハ之
の人にあもく懸巖を楚辭にてあと行ひ深處にさ
くくみくみを海よりすと終もるれハ涇のことを
されと吉邦ハ輿地南北緯川流の海に入りの近
は吉河と名づて巨川渴流れり滅ほよほくのをくき
を災ハ火既よりも拘れもと島史にみえたり鋼鑑
宋紀水圖也異と載るうあき斯邦ハ志同不あり○田
地の水を遠行放つするも己の田みてハ父子兄弟
の分地ともつとも互に告すてを一切あらね故
寔トシテ田放溝埋藏挿絆アリと尼科ヨ深ルキ
トモリシテキ法と祀るのみし壁人比浦ハアセ

ヨ流ヨリシテ金し能ともかく七月の炎威地ヒ集し渠
澗皆于涸反てハ農夫脅とあく迫とくと田畠を差
里ゆりて已く田に流と引きと浸なり按水を引ヒ
ふ引すれ移ふとお言ナ水覓水を引ヒ
タリム田ニミトマリムトマリモ申に水の浸ぬるよ
於てハ夜に急て窃ニ他人の田を毀して己の田へ浸入
あくして嘗訴訟スナムと毎年わう歳内ヒ申入
河内ハ葛城山と中央みて國界按ヨ葛城山ハ北
安堵約金割の衆山より南壁に於其山水脈ハ一々
左右に分岐するゆゑ稻田に引する上流と大河内よ
定主に多き也いとて夏秋の文歲ミツヨリ常冰やも

皆もしまのまゝ堰ダム川除カキツブのあく寧界ナカニ
入組ハラフの根ルをし歎タマハシよあはちろのあそり わ
いくわくとすすりやまきりこれ輟耕錄袁介踏災行農
家争水如争珠と似シテり按アリ古事記に天之水分神國之
水分神わり涙リビタは分ハ分配バリあり万葉七ふ三芳野ミヨシノ之水分ミツバ
山ヤマとすみは太和タハとて々トテハ水分ミツバの大和タハ河内カワチ扶桑スルガ也
の所ホよ水分ミツバの沖社ミツバノカミと凡ハてあるみと詣アリし功コウと浅カモさじ
る神カミとらつりあひよ此沖社ミツバノカミと大和タハの御多幸ミツヨシ
奈ナカニ大吉タケシより常冰ミツヨシのあたたかさ不羨ミツヨシよ田水タダが敵アシよのゆ
ありアリいづれ今アリの用水ミツヨシかう満酒ミツヨシ像アシら

の吏とおれし出雲風土記より用水所集とありて用一
ハ田の字よ仍とまゝハ田と用ひとひゆ中と既子令
よも出てみよきああより東鑑文治四年三月十九日遠江
守義定使者參着於當國所領今下人等引用之處近隣
熊野山領住民等相支之間起鬪亂相互及刃傷云々戰國
策云東周欲為稻西周不下水東周患之蘇子往見西周之
君曰君之謀過矣今不可水所以富東周也今其民皆種麥
無他種矣君若欲害之不若一為下水以病其所種下水東
周必為種稻而復奪之若是則東周之民可令一仰西周而
受命於君矣又晉書云杜預修郡信臣遺跡激用濱渭諸水

以浸稻田萬餘頃分疆列石使有定分公私同利衆庶賴之
號曰杜父○水の持りといふハ陰陽旱潦と云はどりて
多れり多方と塗拂するこより五ヶ月未嘗田に水の
波を宣和おれしく二才許もハ端々々のりあり是
が土上田比せあり中田を一歩水二寸ちとす候宣
ある毎ト田ハ四寸もと大率とと○旱魃の患ハ僅
極難うし万葉の歌ニ雨津日の連バ樹し田を播し畠
色朝海に萎枯過ヒ詔後漢書獻帝時三輔大旱帝避正
殿請雨遣使者汎囚徒原輕繫是時穀一斗五十萬豆麥一
斛二十萬人相食啖白骨委積帝使御史侯汎出太倉米豆

為飢人作糜粥經日而歟者無數帝疑賑恤有虛乃親於御
座前量試作糜乃知非實使侍中劉艾出讓有司於是尚書
令以下皆詣省閣奏收侯汎考實詔曰未忍治汎於理可杖
五十自是之後多得全濟○新儀式曰若四月以後八月以
前久不降雨必有請雨之事中引神泉之池水灌京南之田
人炎旱尤甚農業多損或降詔命減除服御常膳之物又免
調庸租稅之未納又遣使諸社奉幣祈請就中丹生貴舟二
社別令祈禱或令奉黑毛馬基長の歌ニ仲壇小引駒の毛
乃也凡えて雨雲立ち一丹生の川上條天皇正曆二年六
月炎天連日萬物變色詔奉官幣於十九社又曰八九月間淫雨不霽必有祈禱

之事又於二社令祈禱奉赤毛馬ト河り是王サの恒れ
乎故モ後醍醐天皇の大御哥子モ里ハ丹波の山上ムと
迎メしシハモ山よ立月雨リの空ス
兼俱記曰保三年閏八月霖雨經月
九天覆雲詔奉凡隆旱コトニに天使ミツシキを丹波舟シマにて
官幣ヨ於十六社雨リめ玉ミタマと史記シカクと燒ヤク之ノ也シテ
雨リとシめ玉ミタマと史記シカクと燒ヤク之ノ也シテ
皇極天カニツヘン皇元年六月大旱徧禱祠宇終無所效於是八月甲申朔天
皇親幸南淵河上跪拜四方仰天而祈雨リ雷鳴大雨遂雨
五日傳潤天下九穀登熟於是天下百姓俱稱萬歲曰至德
天皇ナヒト本紀ヒタチ久ヒタチ與ヒタチ國柱謹按ヨ吾先侯大隅ヒタチ富
初ヒタチより久ヒタチ彌ヒタチて雨リと残ヒタチ葛ヒタチ代ヒタチも彌ヒタチてしも久ヒタチ淺ヒタチ

水大涌出ありまつて勢福田子解の用をと溉に爲し
凡源委あす竹の泉の沸出アツムツとまわらるべ地中よ
循環あるかとやりて爲し又古事記云御井神ミヤミツルと云ひ
井成作て民の利と興ハサウせよ御功ミササギりしと因て称ある
すアリ玉曆云凡欲穿井處於夜氣清明時置水數盆
組云遇深山無泉之處掘井一二丈不得水者可束蘊薰之
而密覆其上火烟不得出必尋泉脉隙處潛通即它山數里
外泉皆能引而致之烟通則泉流矣北征錄云尋泉入山遠
道及砂礪之處乏水者掘一穴容一二石許用濕蓬艾滿中
燒之猛火而閉一小穴相通四望之但見烟出之處不論遠
近掘之得泉肺也妙哉石山中即近石掘之如山即草木掘
之砂礪擇高處掘之此能救急但烟出多水惟深更妙亦但
尋煙出處皆有水一食頃烟未出者再開一穴求之無不得
泉肺也宜博志之朝鮮師律提綱云營邊如無水者以地中
泉井水草之處及地有蟻穴其下必有伏泉可開井取水又

野獸跡太路不遠有水如遇緊急水隨行者須用羊皮
渾脫盛之或大葫蘆亦可是學の一件田土沃謹の用をあ
きのまよかひて小集義が書云山は國を立て第一高
福あるよちりし

とめよて君の象なり山川草木つきて土砂の山谷み
るる上より人の道も抜けのくつよくあらうとし渭
洛つきて夏むじかとあしまれ様はくとといり渭洛
のつまむれとハ山上の草木つきて神氣うら
流水は年々多くなり大雨とくと土砂を爲し入て川
ばうつみ流から山をくじけ川源はくとくとくとく
よいみへと流候ふ地とくまくとくとくとくとくとく
は封山山はれと通し雷暴れ助くると神靈の幻程あ

モ播州備州の浦キニ付テ之敷郡のノリ北のタミタ
神氣及モ播州ハ淡嶋島より起シタミタミタ島の傳御方
小豆島より兩度モ京都近江ナリハ七月の軍ヨモ
タミタ島ハ湖の神氣はドモカクモホ原までトタミオホ
レモモ上北メツキテ涼山シテシムアツムヒ山崇巖ウ
タマリシレハ靈氣也淡嶋島のシムサセキ奈本タタレ
ハ神氣ヒ残アキタタタタタタタタタタタタタタタタ
サリ松山セムハ本山タタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ

てハ毒トモアリカハ浦渡アリヨ相無アリ本多山を彼
木ヨモクハなし紳書曰越前松尾屋慶基代ヨモリテ國乃
東南ヨモク白山より今ナヘツヘキスル本多山ヨモ
ムニナ里ヤミ義濃峰ヘテクソウリ本多山ヨモ
シテモカクシムシカヒトニ万キモテセテ新ラムヨモ
ヨリソリ國ハ日ヨモトクアリ候スモテ既ヨカ
タムヨモクニ奉以集テアリ候スモヒトムヨ
ノムトヨヘハ本多山橋川ハ源ハカツミ川トヨ此
川の本多ハ波ウタリ安ノトモ多モモモモモモモモ
モハケ本多川モリモリモリモリモリモリモリモリ

やうひもうえハ山廻乃大雪だりとてとあるて
岩舟ももはへありつゝとへ春よあくとまく指乃雪
解て後湖に雪解くやうれども雪ふかくのほどしみ
みゆれあとまく拂てすうう拂し雪の一つよ解來
えふハサトの人あそくをゆのキヨマリと人瓦画
ときよしてきのうとあくはくかくも入して山廻
捨てゆくといくともあくからも入して山廻
雪渕とよ解きハこそ重ねもあがりてこれと所ノヘ引て
用ひよもして早またも捨てあしうの雪一つよ解るむ
とくもひまハ大水ふハ渴れし水軍あくの捨也一二

きどせんとて幾不ぬの坂をよするてさむ酒うれしつ
いとくもとてよのすやしぬくや開田耕筆曰近江吉根
の陪臣人菅中書父まみの竹地を捨てたれ或山家にて
不納とあくにつけたまきの後山より林野茂やまと又付
是と伐剪て代うきはかくお納すも及すまきと登
じ農夫いれられあくてハあわの山やまびくととす
つうじとよまへ河の事せとつゝよ雪はほ
よのやあらはばとておもとのあらハ林とりてけふぶ
れ、家とうちとてあらとまく、中書父、古義と
好しくあれ、げりてちくらぬ方業よすす雪ハあり

すあすりそき溝のわづひの事の密セキあるゆくよく行
ヒ山へく是までありハアリテ御ミタケシテ塞シマツトヨウ
シルバアリヨハアリホトムアリスルトム也ソリトモヘ
リ凝リヂヤハ水氣ミズエアリアリシテソレハアリシハソシ
シテ溝ソクシテ氣エアリシテソレハアリシハソシ
シテ上アベニ松成マツナガシハ松マツシテ聞見錄ムカシ云王荆ウジョウ公好ハシメテ言水利リリ
小人語コトバ曰決梁リョウ山湖八百里水ミズ以シテ爲田ミツ其利大カミ矣荆ウジョウ公喜甚
徐シテ曰策固ソラシ善決水何地コトハ可容シテ劉貢父リュウコンブ在坐中曰自其旁別鑿ソラシ
八百里湖ミズ則可容シテ矣荆ウジョウ公笑而止シテ予以シテ爲類優シテ旃渭シナウエ替漆城
難シテ爲蔭室シテ之語コトバ故書之シテ方カタの利コトハを説シテの如シテシカく

そわり山林等社もかりの制シテ發明シテ喜てか之シテ計シテ
るハ済シテハ極シテセの事シテもくもくて來シテめ按シテ山冰北制
いふシテ免シテよども毛纖多シテ小なり弘仁十二年太政官符シテ
一應禁シテ制シテ所損水邊山林產業シテ勢非シテ只シテ堰池浸潤シテ之木水
木相生シテ則水邊山林必須シテ鬱茂シテ大河シテ之源シテ其山鬱然シテ小川之
流シテ其岳童鳥爰シテ知流シテ之細シテ大隨シテ山而生夫山出雲雨シテ河潤九
里山童毛盡谿流涸乾シテ五畿内七道諸國山川海江濱野林
原等一切收入公私共シテ之但山岳之體シテ或於國爲禮事シテ須蕃
茂シテ勿令伐損シテ畧大堰之岳專有禁シテ制シテ小川之山不在禁限因
百姓憚遠シテ貪近シテ川上山林任意伐採シテ至有旱年既シテ之苗焦シテ動

遭損害職此由也望請川谿泉源溝池等縱溉田水邊山林
數澤不問公私悉加禁制並莫伐損令曰凡取水溉田皆從
下始依次而用其欲緣渠造碨磧經國郡司公私無妨者聽
之即須修治渠牆者先役用水之家與之今稻田用
水多係渠系之一二條標して他日稽查を免き材
賃と

土積書紀○即堤坊也三代實錄貞觀十一年勅
夫積土築堤尤為避水河決之害甚為難防

田手亦土手と書あり田中

舊坊為無所用而
壞之者必有永敗
蕃名テイキ

水ハ多々防とて諸も地官の秘訣とも云々し
そ術宜しく之の激がるやうに人して宥しよとす
あもしろよハ澗壹までを勢と平小さくよ術あや澗壹
まであはしうまきは水流と北み導きてはせ直よ
東南の下へ向て流がゆうに導くと緊要と云ふは流
せかく又ゆるせめとほんあ諸水ふく吏したれやう
よあせとよみとなり隣ハ理ハ多キ一埴土城をめん

山
水のまくあくをあらひて、水の流衝
の直よ筋とはみ殿なり。水あて堤あ波とまほのあと
く修して、その力と抜て水の強弱よりも、川下りと
多方ハぬき省御してよし水の強弱よりも、川下りと
度く茎面し。堤は保坡の時脇付上、春ハ川表とす後付
よしとし。堤は保坡の時脇付上、春ハ川表とす後付
しやして冬、寒うる土みハ冬秋より土肥草茂より夏
寒うるハ秋冬より土瘠て崩安し。堤川表と柳
う冬、寒し何より木立と上高きと堤の為より柳
ハ多く侵垂てよし。細葉柳ハ堤の脇よさし。粗葉楊ハ堤
ハ多く侵垂てよし。細葉柳ハ堤の脇よさし。粗葉楊ハ堤
縫式曰、凡堤内外并提上多植榆柳雜樹充堤堰用。と是ハ
植てよし。汎水出る時、水はとより並て薪を充填し令營
縫式曰、凡堤内外并提上多植榆柳雜樹充堤堰用。と是ハ
堤井せきの内子没くるあとなり。駿河風土記曰、楨田堤
郡民植柳栗一千丁丁食充國府師家其食塩。每歲仲春仲秋之望令
充御保由居廬崎海戸三年別防河使令之正事矣。○堤
塗つあるよハ塗なりみはわい、ひりえあむ多ノ小
口塗よも塗しけあふも業付をうりと塗小口ヒト縫よ
てハシゴ塗口とて衆人ハ塗薪とぞもどり。○堤

水のまくあくをあらひて、水の流衝
の直よ筋とはみ殿なり。水あて堤あ波とまほのあと
く修して、その力と抜て水の強弱よりも、川下りと
多方ハぬき省御してよし水の強弱よりも、川下りと
度く茎面し。堤は保坡の時脇付上、春ハ川表とす後付
よしとし。堤は保坡の時脇付上、春ハ川表とす後付
しやして冬、寒うる土みハ冬秋より土肥草茂より夏
寒うるハ秋冬より土瘠て崩安し。堤川表と柳
う冬、寒し何より木立と上高きと堤の為より柳
ハ多く侵垂てよし。細葉柳ハ堤の脇よさし。粗葉楊ハ堤
ハ多く侵垂てよし。細葉柳ハ堤の脇よさし。粗葉楊ハ堤
縫式曰、凡堤内外并提上多植榆柳雜樹充堤堰用。と是ハ
植てよし。汎水出る時、水はとより並て薪を充填し令營
縫式曰、凡堤内外并提上多植榆柳雜樹充堤堰用。と是ハ
堤井せきの内子没くるあとなり。駿河風土記曰、楨田堤
郡民植柳栗一千丁丁食充國府師家其食塩。每歲仲春仲秋之望令
充御保由居廬崎海戸三年別防河使令之正事矣。○堤
塗つあるよハ塗なりみはわい、ひりえあむ多ノ小
口塗よも塗しけあふも業付をうりと塗小口ヒト縫よ
てハシゴ塗口とて衆人ハ塗薪とぞもどり。○堤

茅嶺ハシマツのあまより斜カタツムリあすカタツムリいわカタツムリ、大前オハシマツ一傳イチデンの湖カタツムリもつ
 し天智紀三年於筑紫築大堤貯水名曰水城ミツシマむりしハ土
 と築城キツクシマと云エフ一卫然巨川サテオホカあづの水衝ミツシマよく隄決キレふむ
 びるをハモ地形ジキヨウニ隨スルて二重隄ツバメと設セツべし其交アモリ平日ヒヨウノヒハ
 田疇タダツヅクみかし亟コシて可出隄ダシツヅク此コトハ倣タマシムあり凡隄タタケと修繕フシンもシムよ
 ハ隄豆タナシキと堅固タマシカすゞし隄の裏土ウラツチと取ハサウらどを立て
 川中カワハタの高タカいの土と固く據タマシムて取ハサウらどと壠掘ツボホリといへ
 ○易タガよ千丈チヤウ之堤シマツ以蝶蟻タテハシ之穴ツバメ潰ツバメといへ隄ツバメよえ漏ツバメ
 ハ速タガよ壅ツブツブへし凡隄タタケの下シモよりみ漏ツバメぬあくよは隄表オモテの下シモ
 木本竹カシタケあくよはこタカシマツはこタカシマツは刺心ツバメされハ水漏ツバメより渭



卫隄裏よりすすむ時隄表より茅原敷とおけ漏穴と窓く
 飯し又右のこくまでと漏穴加くまきハ岸上の
 馬縛と馬縛ハ岸上のまきう氷表の方へよせ箱桶もと
 れハ箱桶とは岸のよと漏穴あれ易し此時ハ塙灰茅表
 みとれのがせを土とままと飯しと箱桶もと
 漏穴をかくまとき水漏の上行ふ土ばかり山とねぎ家
 み漏穴漏くあり堤久留^{カクオキ}の上地土おのつゝ
 疾苦を水止むなり○西土宋朝河決の事度^{モヨシ}文
 彦博^{ヒロ}隄岸の決溢ハ天災もあらずと實は人力不足也と
 いひしととおりの今を飯し



井割 和名鈔○刻ハ壅也。凡水より井を以て壅す事也。

為世人

新撰

井手

万葉集○手

堰埭 和名鈔引唐韻。堰埭壅水。

諸堀

也

字書壅水。為埭曰堰。

壅場

字典壅場以土障水。

魏志劉馥治吳塘既福田

蕃名力 P デイキ

今義解曰堰所以蓄水而不流者也。川を渠切る事方より
は出し川のま中より渠築して水を渠へ合ひ。理道要訣云秦以李冰
為蜀郡太守造百丈堰灌田數千頃蜀以富饒。○川渠築か
れ時ハ土石ふと壤ふ入させたる所一筋方より

おうけ塗舎し。○川下窪所ふく押埋みを水枕てすと
のセニ省木ふくつくり川の恰好より凡付ふ渠し川
の派分モ。より十省或二十省を下りて渠のことを
く水枕てすと水を地高の方へ引ちむし渠
窪の方へ引よびもき方へ水深く流りうちれハおの
つう底くられ上地低き方へ砂を押み塗よぼす
きをうよとし通鑑魏紀云將濟豫作土豚遏斷湖水。土
亦作土塍。土也以草。土築城及填水也。○容齋四筆云乾道九年秋贛吉連雨
暴漲予守贛方多備土囊壅諸城門以杜水入



柴 捩 万葉集○堤ハ土もてえとせき

柵 桅 檻 三才圖會排

水 檻 農政全書

柵 桅 莊子内支盈于柴柵
字典柴別作寨非是
水柵若溪岸稍深田在高處水不能及則於
溪上流作柵遏水使之旁出下溉以及中田所

蕃名力卫イ

東鑑泰衡於阿津賀志山築城壁國見宿與彼山之中間俄
構口五丈堀堰入逢隈川流柵○古今集又秋萩ヒカゲ
ミナセテ多氣の月は尼うどそ音のじめけと額昭曰
君の萩ヒ折伏するといひやとあがくみと柵の字ある

荒籠 古事記作八目荒籠取其河石合鹽而裏其竹葉又如之此
石之 沈云々八目の荒籠とて石ヒ裏ハ即今乃石籠の

石籠 三材圖會石籠判竹或用藤蘿或木條編作圈眼大籠
貯石用 指其高約四五尺以籠椿止之就置田頭內
作重籠亦可遏止如遇限岸盤曲尤宜周折以禦奔浪併作
泗流不致衝蕩壠岸農家瀕溪護田
多習此法比於起壘堤障甚省功力
亦作圓明成祖永樂十年工部主事蘭芳立治圓之法云

蕃名ステーンコルフ

籠ハ垣垣よハ居て水底へハナリズシカクゆるハ
出乃さまの幅わざとよ巡り化せもの上まで石と埴輪本
ゆくを施へ篠をゆの上より立たしげ也の中より花と柱



ては、と云ふと實に筆の間とみ、水楊葭葦類と多く棲むし根深くありて土とかむあり又の巣みて
保ざま所ハ石籬と葉もありる處を石壁と云々も製
柳木材まで柱と之一間たり丈丈もれども衝木と
貫し或ハ竹までかゝる者ハ小杙とすあも角のきよ
ハ大石中より細石と實山より石と枝うちもハモモよ
達ふて凡のみ中より用ひの材ハ鉛のねとつるふね、鉛
土より鑿て之より抜て打ち又左右と翻て石壁とせよ
大小ともよきがみもと上よかれて水野よりまづ
かず但水大よりまづ附流よまきて土もとて窓まづ

左右ニ相持^{シテ}其のあく石義^{シテ}はかけめられはち水
勢^{シテ}を押^シさし沙河^{シハ}のつゝ^{シテ}淺敷^{シテ}よりモ代^{シテ}柱^{シテ}ハ上の石
築^{シテ}の重^{シテ}沙^{シテ}と土^{シテ}入^{シテ}と深^{シテ}かしそしてモ代^{シテ}の裏
いよ復^{シテ}沙^{シテ}漏^リて空^{シテ}沙^{シテ}來^{シテ}ハ^{シテ}土沙^{シテ}ヒ
あく流^{シテ}來^{シテ}○或曰堰堵^{シテ}の堰^{シテ}ハ筋直^{シテ}と^{シテ}堅^{シテ}要^{シテ}と
小川^ハみ水^{シテ}引^{シテ}正^{シテ}たがりて空^{シテ}へ水^{シテ}淺^{シテ}土^{シテ}渟^{シテ}ま
漏^リ川^ハ麻^{シテ}く^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}て流^{シテ}支^フる多^シれ^{シテ}又^{シテ}川^ハ
支^フ流^{シテ}の風^{シテ}曲^{シテ}ざ^{シテ}や^{シテ}に流^{シテ}と^{シテ}あ^{シテ}ま^{シテ}と^{シテ}
是^ハ塹^{シテ}澗^{シテ}乃^{シテ}細^{シテ}流^{シテ}の事^{シテ}あり○ひ^{シテ}大坂^ハ中のあ^{シテ}を^{シテ}
出^シ撥^{シテ}石^{シテ}堤^{シテ}と砌^{シテ}水^{シテ}勢^{シテ}と^{シテ}向^シ度^カか^{シテ}あ^{シテ}つ、^{シテ}而^{シテ}留^メ

水攻^{シテ}水^{シテ}の第^二と段^三より元^{シテ}強^{シテ}申^{シテ}あ^{シテ}りてモ横^{シテ}堤^{シテ}と^{シテ}あ^{シテ}
築^{シテ}撤^{シテ}てモ砾^{シテ}と封^{シテ}開^{シテ}と^{シテ}田^{シテ}穀^{シテ}收^{シテ}と^{シテ}て土
民^{シテ}と^{シテ}約^{シテ}と^{シテ}も^{シテ}と^{シテ}之^{シテ}の^{シテ}より^{シテ}も^{シテ}水^{シテ}潤^{シテ}
和^{シテ}利^{シテ}行^{シテ}の^{シテ}田^{シテ}より^{シテ}游^{シテ}水^{シテ}を^{シテ}侵^{シテ}て^{シテ}沙^{シテ}水^{シテ}壤^{シテ}の^{シテ}田^{シテ}之^{シテ}
万^{シテ}石^{シテ}澗^{シテ}と^{シテ}う^{シテ}て復^{シテ}治^{シテ}と^{シテ}沙^{シテ}水^{シテ}壤^{シテ}の^{シテ}田^{シテ}之^{シテ}
是^ハえ^{シテ}水^{シテ}勢^{シテ}と^{シテ}疫^{シテ}と^{シテ}沙^{シテ}水^{シテ}壤^{シテ}の^{シテ}田^{シテ}之^{シテ}と^{シテ}没^{シテ}と^{シテ}之^{シテ}
くの^{シテ}水^{シテ}圓^{シテ}と^{シテ}無^{シテ}と^{シテ}水^{シテ}勢^{シテ}の^{シテ}も^{シテ}也^{シテ}と^{シテ}没^{シテ}と^{シテ}之^{シテ}
急^{シテ}ても^{シテ}出^{シテ}埋^{シテ}と^{シテ}廢^{シテ}ある^{シテ}水^{シテ}勢^{シテ}緩^{シテ}く^{シテ}りて^{シテ}沙^{シテ}水^{シテ}壤^{シテ}の^{シテ}流^{シテ}
も^{シテ}力^{シテ}あ^{シテ}く^{シテ}御^{シテ}冰^{シテ}上^{シテ}と^{シテ}排^{シテ}除^{シテ}田^{シテ}地^{シテ}と^{シテ}漫^{シテ}鹽^{シテ}セ^{シテ}之^{シテ}



堰

堰 橋 古事記亦真橋ヨミ也

又或久比井ヒビイもあり

杭カシキの字と訓ウケ也

川堰カワヨケ東

橋カシキ說文○爾雅橋謂之

桿カシキ杆字彙欄豎木杆カシキ也

椿橋ツバキ農政全書樹立

椿橋ツバキ以抵潮汎

蕃名ハサウエヘイハナル

凡橋ハナシキ又辟橋ハナシキ

承橋ハナシキ

亂杙ハナシキ

川除橋ハナシキの製ハナシキわの繩杙ハナシキ川の

之を用ハナシキてあ勢ハナシキと殺ハナシキり爲ハナシキ也

出本

ハ出本ハナシキハ龜城載ハナシキる

大木ハナシキとて玉篇

古呂婆世ハナシキ者是ハナシキあり此云

川底ハナシキ

へ岸ハナシキは甚ハナシキく高ハナシキて上ハナシキよ

杙ハナシキと載ハナシキ石ハナシキと填ハナシキても絶ハナシキ水ハナシキが起ハナシキし水ハナシキよ入ハナシキもあり出ハナシキハ上ハナシキ流

下ハナシキ流ハナシキよ向ハナシキてはせよよめし哉直ハナシキく或鄉ハナシキをすめしと次又

彈ハナシキ出ハナシキああハナシキの大小ハナシキと多ハナシキみあざれん出ハナシキあゆば先茅

ヒ一反ハナシキ土ハナシキと土ハナシキよ浮ハナシキ城ハナシキ沙ハナシキとセハナシキテモハナシキハ竹ハナシキよ
て柵ハナシキと溝ハナシキの水ハナシキのせき通ハナシキとほやハナシキとまハナシキし凡杙ハナシキの根
の石ハナシキと填ハナシキつし杙ハナシキの皆ハナシキはせまハナシキきあやハナシキよ役ハナシキるハ小
きをし杙ハナシキの間ハナシキと攻ハナシキめハナシキは流ハナシキの勢ハナシキ淺ハナシキく川ハナシキで深ハナシキく川ハナシキは
木ハナシキ杙ハナシキ保ハナシキくハナシキ凡杙ハナシキハ一ハナシキ丈ハナシキよ七八牽ハナシキてよし川ハナシキの
木ハナシキの長短大小ハナシキハ木ハナシキ川ハナシキの清深巨細ハナシキと無ハナシキくし川ハナシキの
險ハナシキくハナシキは無ハナシキく下ハナシキ接ハナシキて出ハナシキせりと川ハナシキ表ハナシキ事ハナシキふと埋ハナシキれ
上ハナシキと斜ハナシキよと大きハナシキうとハナシキむちハナシキなる○岩ハナシキ側ハナシキ深ハナシキく也ハナシキありハナシキと
き所ハナシキハ齋散材ハナシキと伐ハナシキとしまハナシキくみの上ハナシキよ浮ハナシキら人ハナシキの石ハナシキと
移ハナシキさハナシキ伐ハナシキとおののきとハナシキへ沈ハナシキつハナシキと上ハナシキよ石ハナシキと被立
つハナシキし又若ハナシキ或ハナシキと蔓縛ハナシキあハナシキ結ハナシキて川ハナシキの中ハナシキよハナシキ出ハナシキと上ハナシキよ
石ハナシキと拿ハナシキせ盈ハナシキ數ハナシキあハナシキくよあハナシキ延喜式ハナシキ曰凡堀川杭ハナシキ者不

論課不課戸皆令戸頭輸シテ之川無乃虫ハ大いにござむ時の
考タシとあしも此タシもさへの様ヨリよき事モノ小乃舊
てわざれみ乃經キニ通スル所トくあせよ○凡タツ々タツ雨レニ接壤ツカツツク
あとの事モノはよより汎流カニウをより土中ミズナカより水漏ツバツバ出
はれありよそ竹芭スケスキの數カウと持シテ土トかシタし石イシもあとも
あひさなシテふフ、第度タツタツ吹ブて毛梅モモイロ、ツバキ葉ハまマく壊スル

番名ドインヘルム

凡海川等の堤涯冰食吹まふ所みは六竹芭茅ばうれ
よ宣し古事景行卷白定淡水門又作坂手池即植竹其堤
也とあり竹ば樹^ウれ一ハ土かく乃爲なりよ畿内河
功紀曰水至柔而能攻堅凡當其衝者雖鍊石必壞故以力
爭之者卒不^レ能勝焉竹楗柔軟而狎承而制之則水無所施
其敵搏之暴而自得循軌而行貞享中治大坂河也多下竹
條分押接樹^ス為楗凡一百八十餘丈本邦未嘗聞有為
楗者今始用之^モり然^モし景行の御時以竹植
堤^シム^クト^ク即楗あり但古文簡みて人を楗^シム^クト^クヒ

力口世蓋川塞
之畧也
音健溝洫志作捷註樹竹塞水決之口稍々布插按樹之
楗河渠志武帝自臨下淇園之竹以爲楗塞決口註以草塞
其衷乃以土填之也

祭ミツ事モノ

水ミツ畠タメ古事モノ

田中井戸

催馬

樂歌

鉢ハチ田中ミツタケの井戸タメハ池ミツヒ掘ハシメて水ミツヒと

といふ也タメ

溜井

水塞

由利

開田耕筆ハセキ田ミツタケと水ミツ井タメ通ハシメ山ミツタケ的タメ

訓ミツ也タメ

陂塘

農政全書ミツノシヨウ

○禮記畜水ミツ曰

水塘三才圖會ミツノシヨウ印跨池ミツ也

蓄水潦ミツノリ或修築ミツノツク

堤ミツ以備ミツノシテ

灌既田熟ミツノシテ

蕃名ワアトルコム

亦ヘイフル

澗池ミツノミツ溉ミツく水ミツの田所ミツと池田ミツより駿河風土記池田

神社ハ所祭事代主命祈雨祭ミツ之ミツあるうふミツ之觀ミツ
「正字通俗壅水溉田ミツ曰畔田農ミツの澗ミツ一用冰ミツ一種物
三介溝ミツこの三ミツつとえてハ田地ミツ又五日乾ミツハ三割
達ミツ十日乾ミツハ五割換ミツえ崇神紀ミツ多開池塘ミツ以寬民業
是今ミツの澗井ミツの始ミツ仁紀ミツ曰令諸國ミツ多開池溝數ミツ八百
以農為事因百姓富饒ミツ天下泰平也ミツもむては陂塘ミツ
蓄ミツへも流ミツと過ミツて高仰僻隱ミツ地ミツといミツと耕ミツ治ミツ
稻田ミツもあしゆり水計ミツナ所ミツの田ミツ引ミツさぬ手立
而深平均三寸懸ミツくスミツより澗井ミツハ山ミツと行ミツて塙ミツ
渠ミツ水氣ミツ所ミツハ中ミツす井ミツと野ミツても吹ミツあよせミツて澗

水ノ水勢ヲ助ケルハ水輕て保^キシ或曰漏村^ト仕立^スニ植土と馬糞ト茅ツ切文^トモ面^ト塗て乾固^ス地^ト折^クとは復塗^ス也^ト言中^ト凜^チ折^クテ^ス保^カシモ又曰^シ言^ス入^テ二月^{の内}兩^{アシ}ざれハ^ノ望^ム旱^トモ^テ極^シ付^クシ^カは^シ時^ニ移^シ漏村^ハ水深^ゴシ天水^場^トハ^シか^シ漏村^トモ^テ一^{アシ}を^シ常^ニ修^ムシ^カ漏村^モ多く水^之所^ハ走^リざり^カあり^トも^テい^フシ^カて^リれて^カ歩^十步^の所^モ水田^トあ^ハ有^リ○凡^ク單^トの所^ハ漏池^ト塘^ト築^クハ^シ地燥^ト水^底乾^カて池^モ水^たま^スる^カと^ア其^場^ハ塘^モ枝^モ柳^モみ^ト捨^テ

寧^ニ一^{アシ}と^シて水^のつ^リ漏^スう^カ又^シ田^の水^換え^シ所^け田^ト常^ニ水^たま^スゆ^カ田^の中^ニ塘^モ掘^ル水^{ビ^シモ}洿^ク池^ト門^トも^トさ^シれ^ハ田^小濁^カ水^{淀^ムシ}多^シ高^カ火^に便^シア^リ後^ク紀^曰許^シ曾^部朝^臣帶^シ麻^呂等^言大^和國^{廣瀬}郡^田疇^多數^灌溉^シ水^伏望^シ以^シ公^田七^町築^テ堤^ト為^シ池^ト同^リ公^私其^功食^等並^用私^物許^シ○周^書地^官稻^人掌^稼下^地以^シ蓄^畜水^以防^シ止^シ水^註以^シ水澤^之地^種穀^ト蓄^畜流水^之陂^也防^堵旁^堤也

械^書紀[○]又渠槽^{の字}と訓^ウ注^{渠槽ハ木岸通^{アキ}水道^者是織具^の梭^{と同}意^也按玉篇械^決塘^水類篇通^波竇^{和名}鈔引}

杜甫

六月青

稻多千

畦碧泉

亂抑秧

適云已

引瀦加既

灌更僕往

方塘決渠

當新岸

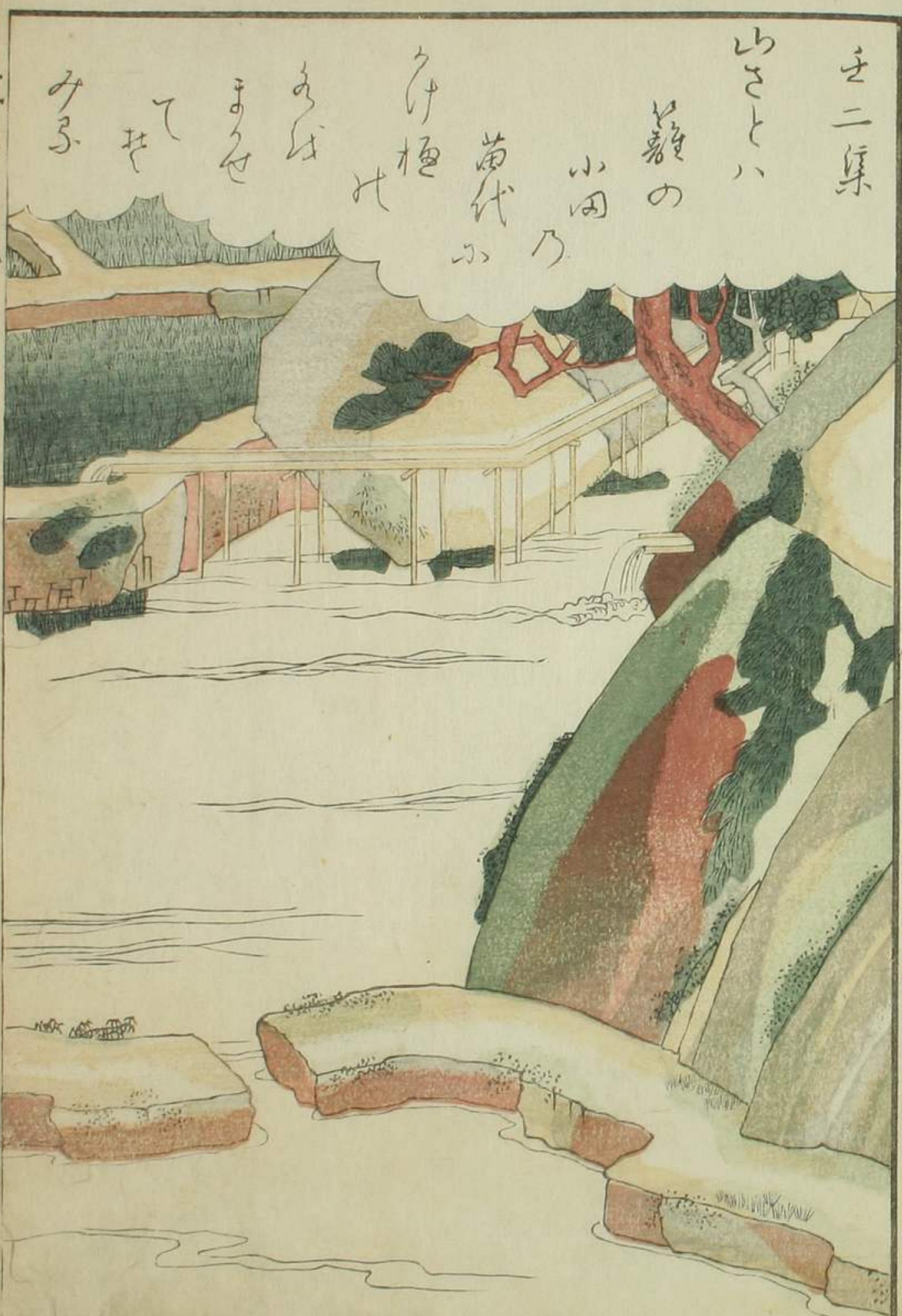
公私各

地着浸

潤無天旱



卷二集



成形圖說卷之十二

三十九

淮南子決

下通 古事記○万葉集同し私記土下度^ス樋也接^ス俗

乃樋^ト新撰字鏡^ト言土樋亦底^ス水道是^ミ近^シ即暗溝陰覧是^ミ也

瓦樋^ト新六帖踏越^スる道^トあせ^スは瓦^トハ瓦樋^ト瓦竇^トう意

瓦樋^ト樋の朽^ミも^ミし^ミうりと^ミ瓦^トハ瓦樋^ト是^ミ六陰溝^ミあり

相似^スく^ミ是^ミ六陰溝^ミあり

明皇尺八^ト吹^スしあし^トそく^スり

瓦竇^ト農政全書瓦竇泄^ス水器也又名函管以瓦筒^ト兩端牙^ト鑄^ス

石檻^ト以護筒^ト口令於啟閉上不然則水湊^ル其處^ニ非^ス難^ス於

室塞^ス抑^ス亦衝^ス滲^ス漏^ス不能^ス久穩必立此檻^ト其竇^ニ乃成

函覧^ト陰竇同上○左傳自其竇^ニ錢塘湖^ト入字典竇水道也

石記 番名ドイクル

澗池^ト天水田^トの傍^スの多^シ池^トの内^ス尺八^ト立^ス

尺八^トは孔七八^トより十三四^ト又^スれ^ス尺八^ト取^ス名^トモ^スよ^ス
底^ス水通城通^スし田^トへ^スも^トく^スも^トく^ス彈正式^ト置^ス樋^ト通^ス
も^トあ^スも^ト下通^スと^スみ^ス也^ト攝津風土記山伏下通^ス而從此樋^ト
内通^ス云々田^ト水^トも^トん^スも^トん^スあ^ス上一畠^トの櫻^ト拔^ス
も^ト行^スも^ト尺八^トの沖^スあ^スて田代^ト一派^ト流^スと^ス深^シく夫^ト少^シ足^ス
ある第二畠^トの櫻^トも^トか^スかや^ス小^シ少^シ足^ス小^シ櫻^ト
セ枝畢^スと^ス澗池^トも^ト立^スて放^スき^スあ^スり夫^ト少^シ又^ス尺
八^トの櫻^ト挿^ス立^スけ雨^トふ^スみ^ス水^ト渟^ムお^スと^スみ^ス也^ト唐

白居易錢塘湖石記一名上湖周廻三十里北有石函南有^ス
範凡放水溉^ス田每減^ス一寸可既^ス十五餘頃每一復時可既^ス五

十餘頃是尺八の水ばかりとねりし又白居易石函記

里

懸桶姓氏錄械の字と刻正新山松みやくくいふ掛角
の竹乃もうけてとのむうきちの竹ともうあし

通桶架越

架槽三才圖會木架水槽也間有聚落去水既遠各家共力
造木為槽遞相嵌接不限高下引水而至如泉源頗高
水性趨下則易引也或在窪下則當車水槽亦可遠達若
遇高阜不免避礙或穿鑿而通若遇拗險則置之以木駕空
而過若遇平地則引渠相接又左右可移隣近之家足得借用
類篇通水器亦作笕水笕也集韻以竹通水也

蕃名ワヤトル・レイティング

井桶和名鈔○械の字と爲比訓たゞと書紀より械と比
桶とのよあれど今俗从桶の字と用う一說より池
桶の義あり勝間田の池乃いひあと詠めま

桶口

閘門正字通舊注同肺今按漕艘往來布石左右如門設版
曰閘河設水時啟閉以通舟水容一舟銜尾貫行門曰閘門河

閘官司之

斗門大學衍

水閘三才

義補

蕃名ハルデユール・ハンデイキ

閘ハ備蓄洩之溝とハ田へ水をかけらるゝもと是と伏
多小淺く伏す者とあつてお浚の比取より深く掘伏下
土と平ヨ平均し閘セ伏兩端を堅實て瓦合モト一閘の
つづり写ふ者の内堤のあとあらそ寧てよし是ハ大

水の町閘の戸と閘は又閘弱くやりやどきよりの由志石
砌と築て閘の戸とえまは二重ふくらみとせき内と抜入
ぎまづり凡用小ハ廻「尺四方とて水ハ百町の田セ
畜ふと」アリ王禎稻論云蓄陂塘以瀦之置隄閘以止之
○落坂ハ津と所と掘立くして多く人力或用土上掘さ
うつみり工夫と費やきり少し間數多きり浅き所と則
計ひ掘深を無し水よく通ひて掘立へみり工夫と省
力也落坂久姓せよ先一色ん掘て多サし西(尼)もうち
西○忠水落坂ハ川下より掘めて川上と細河下と淺く
掘ゆし是水と多く溝をあまひぬけたり○用多ヒノ敷塙

右川上を廣く低く川下浅細く高く掘てよしもうちざ
れを下流よどりを緩ぐしあ川下より掘めて用多
ヒ太の地へシテ落坂坂の坪を一坪大抵人足二人
草四分はくものかずあり

金網井書紀○今言絞車井あり太平記指卷書ありモ繕
ハ主系に鍛索を用わしよ
卫金網いじりあり

彈罐

桔槔桔亦作樺莊子桔槔者引之則
脩倉之則仰通俗文機汲水也

蕃名ヒツト卫ムムル



莊子衛有
五丈夫負
金八井灌
畢終日一
區鄧析過
下車命曰
桔槔教曰
為機重後輕
前後終日
溉百五丈
夫吾師言
機智之必有
巧也心機智
之不爲吾不爲

水車

日本
後紀

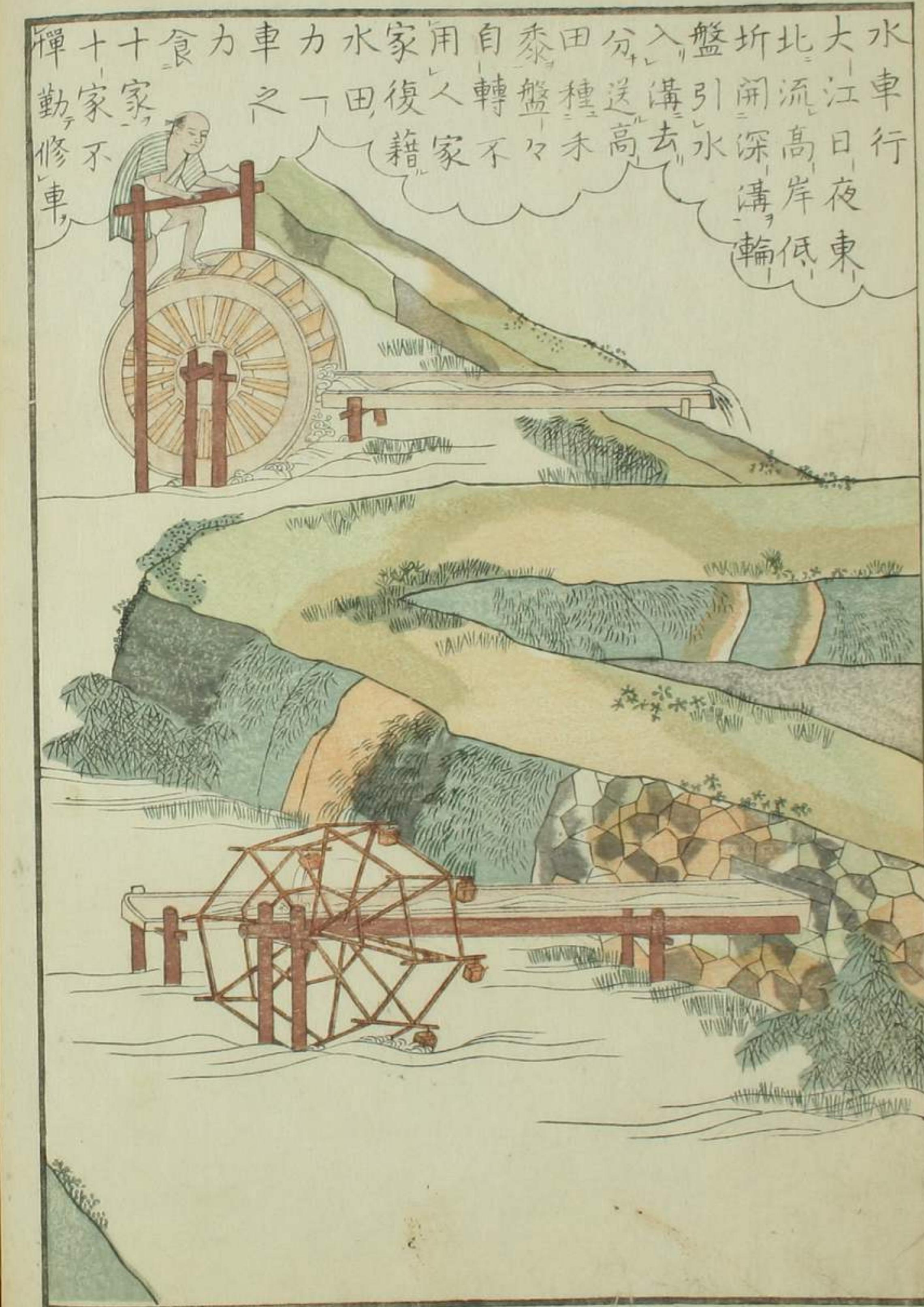
此の用力少而見功多と称せ然もても數千畝の田
より水盛盈むるものは升戸より取りくばあくすら
らを川渠の所は水上より架と據て巨竹とし庵した桶
を約めて槽より田より汲かくはよりうし
投罐和名鈔罐汲水器豆流閉と訓めり即
蔓巻の腰あら巻ヒイムノ開くム
水斗品字篆提水者禮大記木角註角瓣之斗廣
韻肩斗舟中渫水器也是今之阿加登利なり
蕃名ウ卫ルフ卫ンムル

かどあ人相對して之諸梗城熱て稻田一榔溉との事



明何法齋
片々龍
鱗蛇老
蒼有時
伊嘯捲
滄浪真
機動處
何能力
自是
傍人脚
手忙

明何潛



A traditional illustration of a man operating a large wooden water wheel. He is wearing a simple white robe and is positioned on a small wooden platform or boat-like structure. The water wheel is mounted on a vertical wooden post. The background shows stylized green hills and a blue sky with white clouds. To the right of the illustration, there is a block of Japanese text in a cursive script.

利宇古志

即龍骨車の
約語

筒車

三才圖會於一輪之一週水激轉輪衆筒塊
永次第下傾於岸上所橫木槽謂之天池
云翻車今人謂龍骨車也行道板一條隨槽闊狹人憑架上
踏動桺木則龍骨板隨轉循環行動板刮水岸又踏車踐

車牛轉翻車牛曳水車等の製あり又龍

尾車恒升車王衡車も亦斯変製あり

蕃名ワアトルモーレン

日本後紀天長六年夏五月太政官符曰大納言安世作水車云云以為農業之資其以手縛以足踏服牛廻等各隨便宜若有所貧乏輩不堪作備者有司作給今按以手縛ハ龍尾車の類而輪軸のたゞく以足踏ハ即龍骨車也服牛ハ牛轉翻車あり侍並草よりゆ後の沛池より大井川の水

ヒ引セムもとて大井の土民に仰て水車を造られに
足多の錢と給て數日よりて無事りしよ大工
紳士りきれハねじらの富人と召て旅させられされハ
安らうに詰てまわせきりりりゆつやくよ転てあ
と汲入るこことなりからり○夫木集みづきもう
治の川底の水車をまとめて夫は掛り

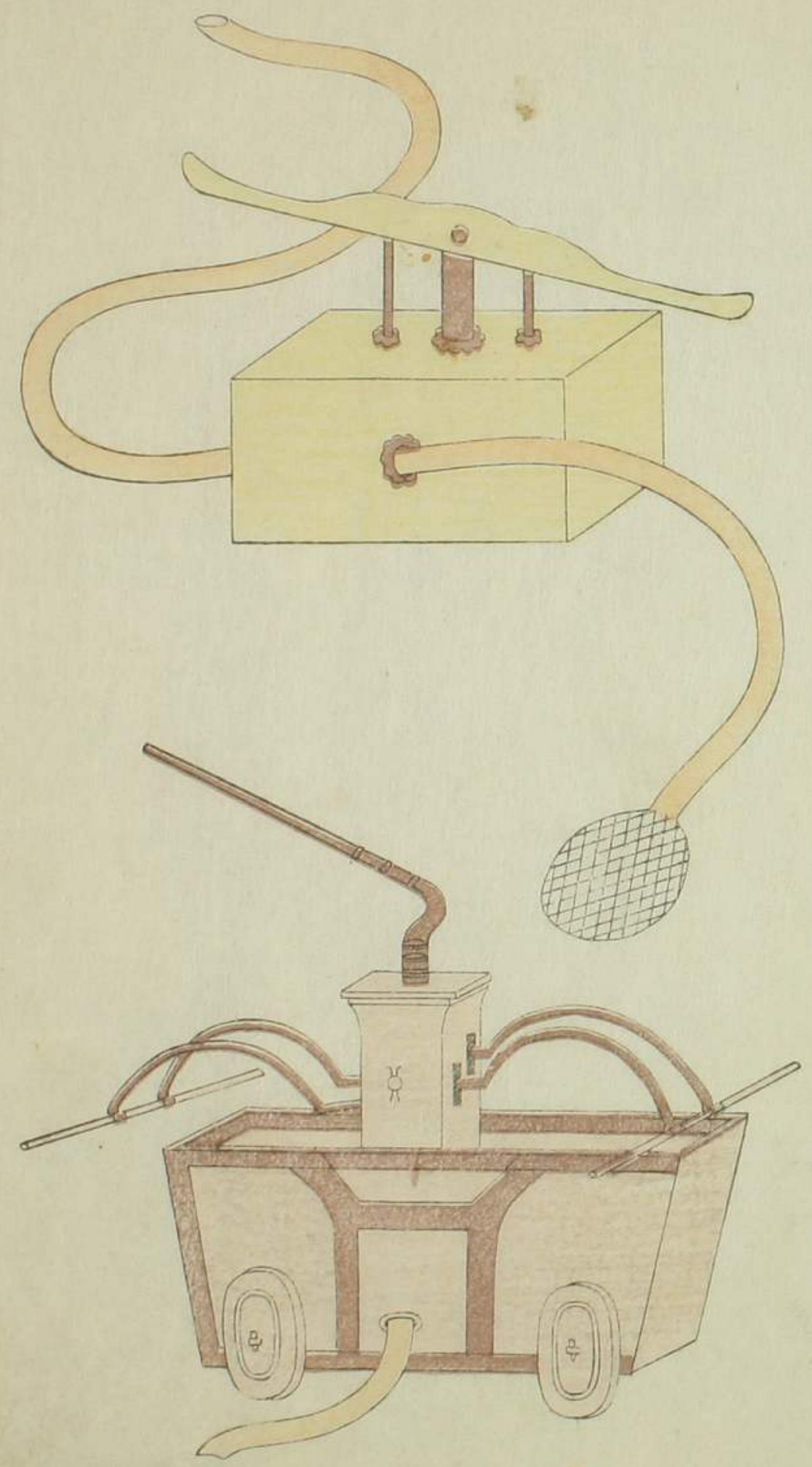
駒乃頭名物六帖○是車の水汲桶と板とおて

渴鳥後漢張讓傳作翻車渴鳥註渴鳥為曲角以木引水上

渴免水

龍並同

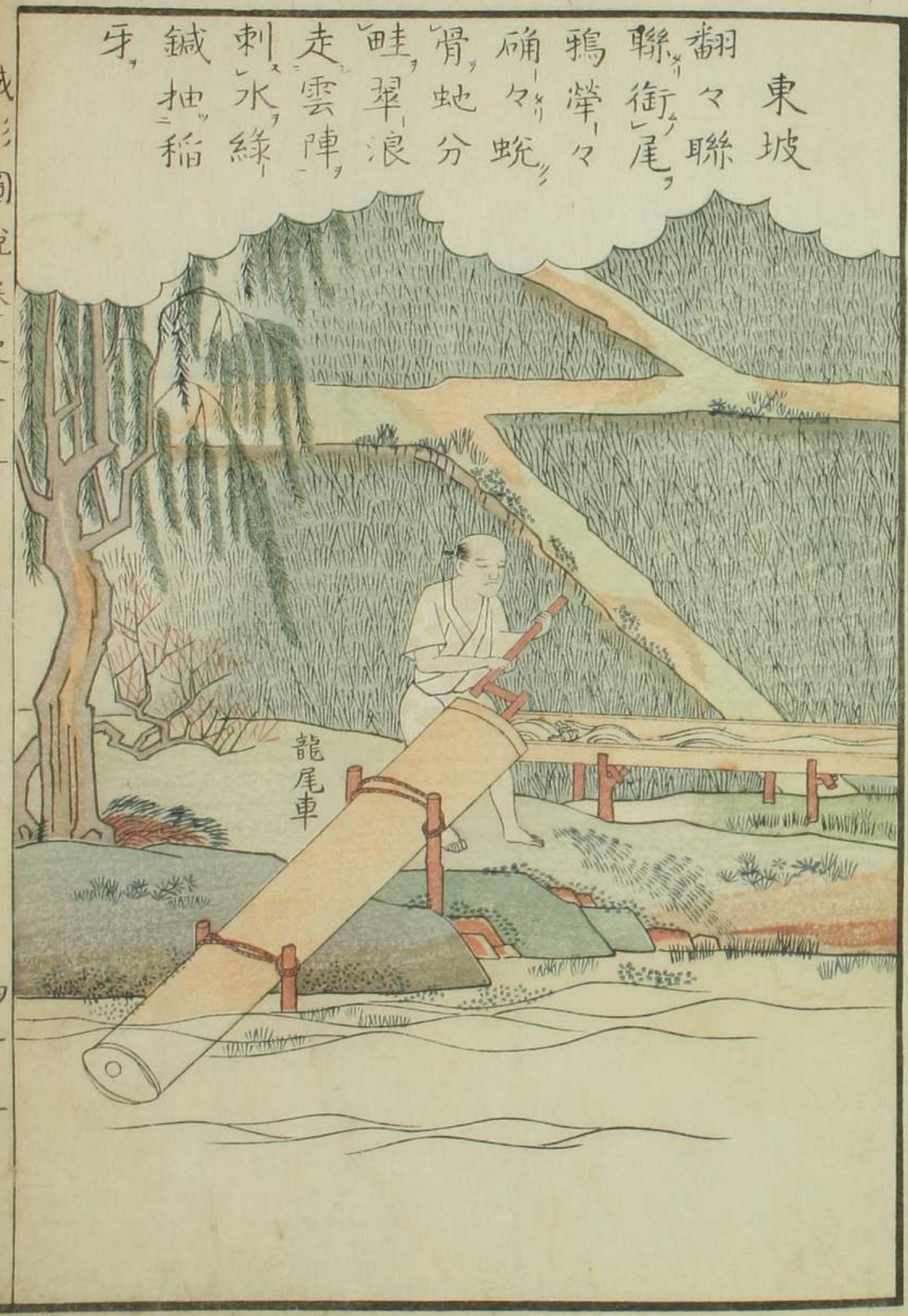
蕃名



恒升車 蕃名數樸以鐸

恒升車ハ俗言龍吐水也あらるニモ智ハ革^カ或ハ布^テで
囊^{カロ}とこゝろの首のやうして五十匁^{モテ}を継^{シテ}まし
の一端^{カタチ}ヒ井泉の底^{ヨミツ}浸^{マツ}て左右より鞴^{ハラ}シム^{シテ}エ
ヒ吸^ス昇^スせよ上の一端^{カタチ}はぬり所^{カタチ}へ振^{ハシマ}け灌^{ハシマ}まく
あすら是龍尾車^{カタチ}の及^スる所^{カタチ}の壁^{カタチ}立湯^{カタチ}の冰^{カタチ}と
雪^{カタチ}とれてそれハ山^{カタチ}よさかのぢ^{カタチ}セ又雪^{カタチ}と逆^{ハシマ}む
て^{カタチ}も囊^{カロ}ヨハ相油^{カタチ}といしと漬^{マツメ}めてあそ曳^{ハシマ}キととと
どり囊^{カロ}あれハ屈伸^{カタチ}匂^{カタチ}頬^{カタチ}へ治^{ハシマ}つるゆゑ^{カタチ}よる遠^{ハシマ}く
坊^{カタチ}の因所^{カタチ}ともえくともえ引^{ハシマ}きゆゑ^{カタチ}ととととととととととと
和蘭^{カタチ}の製^スて蕃名^スボイト^{カタチ}といフ

龍尾車ハ河底まで水を引揚るの器あり累接して水を
 上れも山も引くよしとし廻し是一人の力以て田二十
 畝とうほほの功を挙げ一粒の肉よ螺旋の孔道
 ありかハ圍してみど洩さぬ螺旋より升る長一丈有
 れハ水の高さ人足三四五の句股の法ありこれとせふ
 てもあ升うも格斜の度行ひ一人またあ
 龍車ハ山陽道よりみて水田に用ひ黑也方一間許の
 箱の底を咬達小宍^ノと川の幅を浅く抜て箱中に螺旋
 鉸^ノ板と鉗柄と附て押とさハ板窄^{スホリ}引ハ板宍^ノくやう
 小^ノてあ其勢につま^シて升るあり柄の湯よ揚^ハり



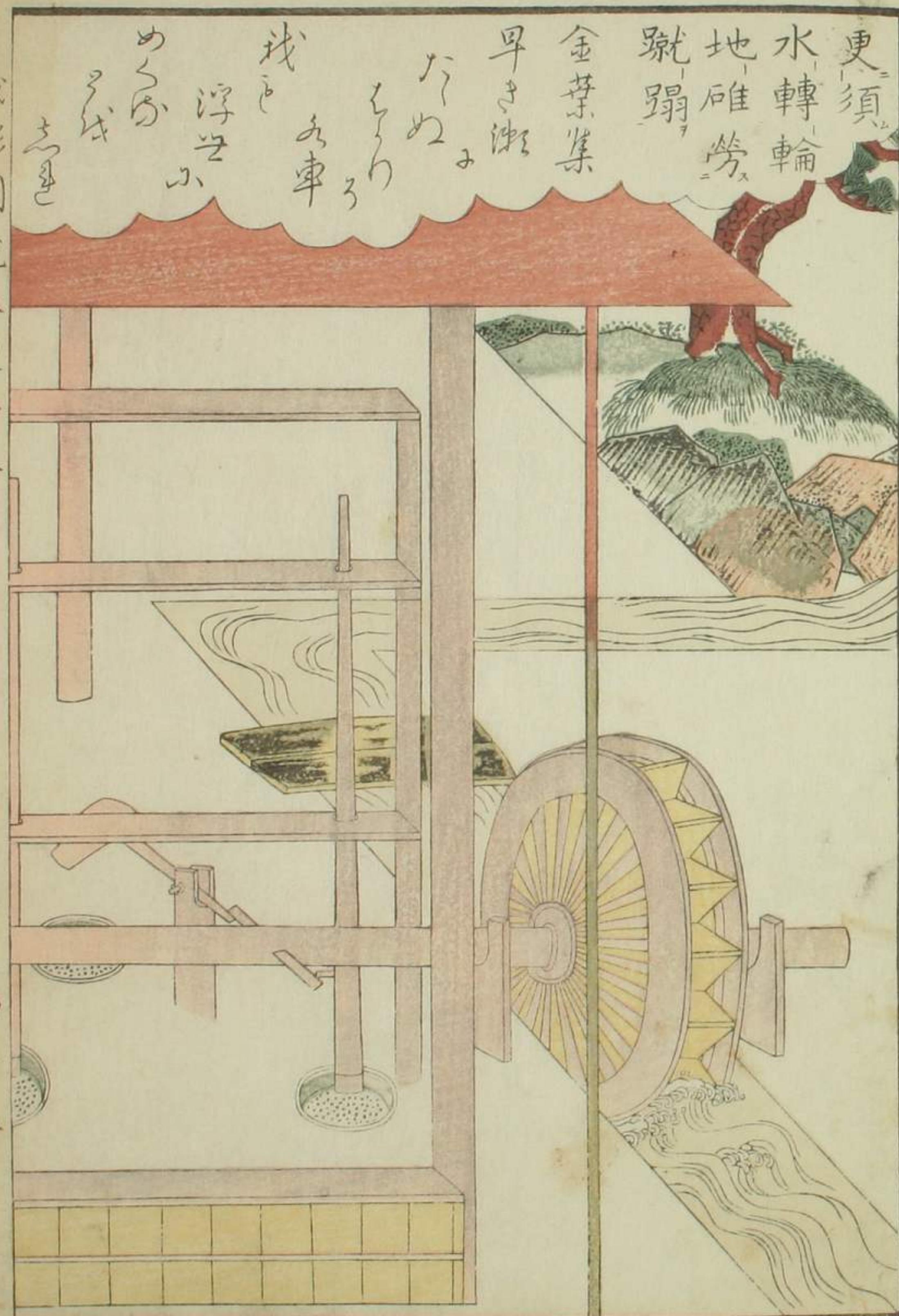
玉衡車も井泉の水と掘りくよ水彈の製のまゝふして田畠の旱のうよ一井とてみと灌も數畝と漫へし一人もて一窓と動せも百泉逞上して高み升りいりあす大旱、わうとも敷升と合て人力相代汲取るハ鉢町の田とも乾涸^{カラサ}ざるや是江河泉間のあざてあるの上よ越さぬ底曲の盤道^{マラ}とも波しおつきの様巧り

水碓
紀書
水車臼



宋耕織圖

娟々月遇
墻，蔽々風
吹，葉田家
當，此，時
村春響
見，流香，會
行，聞炊，王
匙滑，相答，
當，此，時



水碓増續韻府○三才圖會機碓水搗器也粗譚新論水碓激使自春即其遺制也又輜車水磨水碓水

磬水轉磬也水轉碓也

蕃名スダメブモーレニ

天智紀九年造水碓而冶鐵式チラウスサタル此事哉らムニ又生鍛

ヒ源疎シテヨモガ用う山城志曰於堰渠作水車轉磨碓

曾布豆

島威の曾富騰カタマツニ出ル足勅アシケツカナビシテ自番ニ

承澗流シテヨモガ小碓水滿カタマツク碓首印起就アシケツヨリ

此者

ゆくを僧の玄賓カミヒンカノ所カノホシテ

水鳴子

太郎

槽碓ソウツ三才圖會碓稍作槽受水以爲春也凡所居之地間有

上減細後梢深澗シテヨモガ可選低處置碓一區一如常碓之制但前頭

下注於槽水滿則後重而前起水瀉カタマツ則後輕

勺シラフ正字通山居者剝木爲勺

自春遲速小異功倍杵眷俗謂之勺

蕃名シケワプスマムブル

水臬スカイ天智紀十年獻水臬スカイ○漢語鈔準繩の字セ訓め卫

壠

準

水盛

水繩

水平スカイ通典木槽長二尺四寸兩頭及中間鑿爲三池三池各置浮木上建卒齒以水注之三池浮木齊起眇目視之三齒齊平則爲天下準置照版度竿亦以白繩計其平則高下丈尺分寸可知謂之水平○衍義補疏家謂以水平地於四角立四柱於四柱以水望其高下即知地之高下準繩然後平高就下而地乃平殆今世所謂水平也舊孟子○前漢律歷志繩直生準者所以揆平取正也○繩音繩又與闡同考工記匠人建國水地置繩以縣蹠繩柱也

以縣者欲取柱之景先須柱正欲柱正當以繩
縣而垂於柱之四角四中繩皆附柱則柱正矣

蕃名ワタルバス

凡平原の地よ敷小渠會と疏さんとまよひの地而乃
高低とそぞりづき内ハ夜中を將より極らんとまよひの地
面の一町或ハ半町又半里火と燃し川上川いより之セ
至る觀るよ其火光の高低を察して半地画の通夷と審也
而し又川流の水派ヒ浚つはよも舟の上よ篝火と焚て
モ火炎とつよきよて川面の浅ゆと識おとあり漢溝洫
志觀地形今水工準高下河内圖會よ譽田八幡宮四季神
事の中正月十四日月新とまよて油物よみを入ねよ同ヒ



ヒヤリ年中比水斗何合トモテ是祢宜の役あり

水脉津籤ツツシ萬葉集より水尺ツツシ御石ツツシと塙ツツシとあり咫ハ尺の義訓よりしてよほと立てぬの涼沫ツツシとちかはりのあり○又

衡石ツツシ書るハ石表ツツシと衡樹ツツシしみたりあんと立ちかくし

年山紀ツツシ聞よ咫ハ越乃深放ツツシと

あるハ却てくも一かくを
水尾木ツツシ尾或深の字ツツシ江河湖ツツシより水表政ツツシとゆる水表ハ遠方の謂あり

亦深遠と 水標 水尺

西湖志吳越王錢鏗築塘ツツシ捍江水置鐵幢ツツシ以爲水則ツツシ幢製如杆徑七八寸出土可三尺餘其趾入土不知

若于 蕃名メートパアル

類聚國史難波江始立檣標ツツシ○雜式曰凡難波津頭海中立
檣標若有舊標朽折者搜求拔去之學曰水尾津等ツツシ葉遠津淡海ツツシ佐細江ツツシもよもよこれと云々海ハ奈良府
ウカセツツシまは乃つよしづれハいつともりれども
よ多高し○水標の一體に川中一大箱の板と達若の内
よ半と鋪て半の半よ板といふもよ深しやうかして水
の湧ツツシよ浮て半よ一つのものはより上よ浮出は
ひと高下わり是より水標と云々とすり水魚埋ツツシせ
れハ半愈よく抜けるゆゑき方よりその由来と云ふ
スアキ

成形圖說卷之十二終

